



コタンメール Kotanmail No.66

北海道白老郡白老町若草町 2-3-4

財団法人 アイヌ民族博物館

2013年1月20日発行

<http://www.ainu-museum.or.jp>

サーミの言語教育について

みなさん、サーミという言葉をご存知ですか？ サーミは、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ロシアにまたがって居住している、北欧での先住民族です。サーミは「自らをサーミ人と考え、本人、両親、祖父母の中にサーミ語を第一言語にしている人が一人以上いること（フィンランドの場合）」と法律によって決められています。つまり、「ことば」が重要と考えているのです。昨年12月にサーミの方たちが来館し、言語教育について教わる機会がありましたので、紹介したいと思います。

1960年代、サーミ語の消滅の危機がありました。そこで、「ことばの巣」プログラムを行いました。保育園で子供たちを対象に行われ、9時から17時までの間、サーミ語を徹底的に学びます。といっても、机に座って文法・発音…というわけではありません。普段の生活と同じように、「暮らしながら学ぶ」方法がとられています。保育園の中では、原則サーミ語しか使えません。そのため、子供たちが言葉を覚えるための工夫がなされています。たとえば、家じゅうの電化製品にサーミ語で書かれた単語を貼りつけたり、大きな木を書いたポスターに覚えた単語を張っていく、ゲーム感覚で単語を覚えさせるようにする、伝統的な歌と一緒に歌う、などです。もし子供たちがサーミ語でなんていったらいいかわからなくなっ



サーミ語の言語教育について語る講師のイリアさん（12月13日）たら、先生にそっとフィンランド語で耳打ちをして、小声で教えてもらうことができます。

このプログラムは子供たちだけではなく、大人にも対応しており、40年続けた結果として、話者数の増加に成功、そして子供たちのマルチリンガル化につながりました。

続けさせるコツとしては、「決して無理強いせず、気の赴くままに学ばせること」だそうです。ことばを習得するためには、普段の生活で学ぶことが一番なんだなあ実感しました。ぜひ他言語を学ぶ際の参考にしてみてください。（中野巴絵）

町民パスポートの登録と配布を開始

2012年11月より「町民パスポート」の登録と配布を始めました。白老町にお住まいの方は、博物館の入場料・駐車料は無料です。これまで、入場の際にはその都度、お名前・ご住所の記入と身分証の確認が必要でした。ご利用していただいている方から「入場の手続きをもっと簡単にしてほしい」というご要望にお応えするために始めました！登録の際に一度、お名前とご住所などを記入いただき、身分証の確認を行いましたら登録完了です。その場で町民パスポートをお渡しいたします。

その後からは駐車場と入場の際にパスポートを提示していただければOK。また、一回の入場につきスタンプ1個を押します。スタンプが15個たまりましたら、館内「カフェリムセ」の500円分の飲食券をプレゼントいたします！有効期間は2年間、登録料は無料です。この機会にぜひ登録ください！他の特典もあります。詳しくは、アイヌ民族博物館 82-3914 へお問い合わせください。



アイヌ古老の「声」を聞く

～文化庁助成「音声資料のデータベース化事業」～

博物館の2階には古い録音テープがたくさん保管されています。当財団ができた1976年以来、当時の学芸員がアイヌのお年寄りから物語やアイヌ語、昔の生活などを聞いたもので、本数にして500本あまり、録音時間にして663時間分にもなります。いずれも貴重な博物館資料であり、アイヌの文化遺産です。

本来なら聞き手が整理して発表すべきなのですが、様々な事情から大半がそのままになりました。やがてお話を聞かせてくれたお年寄りも亡くなり、学芸員も代替わりし、テープだけが残りました。これまで整理・公開されたものは全体の約5%にすぎません。しかも録音の一部だけを整理・公開したいわば「つまみ食い」で、本格的な作業は後回しになっていました。

そんな中、2011年4月から文化庁の助成を受け、「アイヌ語音声資料のデータベース化事業」という事業を始めました。この事業ではこれまで後回しになっていた「録音テープを残らず起こす」ことを最優先課題に定め、目的達成に向けて努力しています。今回はこの事業についてご紹介します。

【スタッフ】

この事業は以下の5名が担当しています。

安田 益穂 (事業管理、校正担当)

安田 千夏 (アイヌ語、校正担当)

山田 美郷 (聞き起こし担当)

川村このみ (同上)

矢崎 春菜 (同上)

このうち、山田さん、川村さんは2008年からの第1期担い手育成事業(助)アイヌ文化振興・研究推進機構受託事業)の卒業生で、3か年の研修の成果を生かすべくメンバーに加わりました。矢崎さんは北海道大学大学院博士課程に在学中で、若手研究者として将来を期待されています。この3人が録音テープ(の複製データ)を聞きながらパソコンで文字起こし、それを2人の安田が確認する流れです。



▲スタッフのみなさん

【成果】

第一の成果は、長年遅々として進まなかった聞き起こしが一気に進んだことです。この1年10か月の間にメンバーが行った聞き起こしは1万1000ページ、900万字、録音時間にして400時間分、これは博物館音声資料全体の6割に当たります。このペースでいくとあと2年以内に聞き起こしを終えることができます。

もうひとつは人材育成の成果です。3人ともこれまで授業の一環としてアイヌ語を学んだことはあっても専門ではなく、聞き起こしも未経験でした。ですから当初はかなり手直しが必要だったのですが、今ではアイヌ語の聞き取りも翻訳も驚くほど正確になりました。

実際の仕事は毎日7時間余りイヤホンをして黙々とパソコンを打っているだけの、ある意味単調で孤独な作業で、相当の忍耐力が必要です。しかし録音とはいえ、今は亡き高名なアイヌ伝承者と毎日数時間も向き合うというのは、アイヌ文化を志す者には願ってもない経験です。彼女らの毎日の地道な努力が実を結びつつあります。また、ここで身につけたことは将来生きる日がくるでしょうし、そうならなければなりません。

【これから】

まずはオリジナルデータをインターネット等で公開できる形にすることです。資料にはプライバシーに関わる話が多く含まれるので、音声・文字データとも編集が必要ですし、関係者の許可が必要な場合もあります。札幌にある北海道立アイヌ民族文化研究センターのホームページには「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」というコーナーがあり、昨年来多くの資料が公開されていますが、当館の事業開始にあたって貴重な指導・助言をいただいています。今後も協力しながら進めていきたいと考えています。

次に、さまざまな成果品を作成し、活用することです。

資料の中には、今の私たちも共感できるような物語や、アイヌ語学習の格好の教材、体験学習にしたら面白いような素材が少なからず含まれています。ホームページで公開中の『デジタル絵本』(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブス)も成果品のひとつですが、過去4年間で53万ページがダウンロードされ、絵本は約45000回視聴されています。公開すれば利用者はいるのです。

また、次年度以降、『アイヌと自然 デジタル図鑑』と題したインターネット教材の制作・公開を計画し、ただいま準備中です。彼女たちの今後の活躍にどうぞご期待下さい。(安田益穂)



アカゲラになった女の子

絵：小笠原小夜
語り：今津朋子

▶ホームページで公開中のデジタル絵本

